

氏名： 瀬角 龍博

実施国： カンボジア

協力活動

(1) 計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点はありましたか？

- 活動場所に変更があった。4 か所を回る予定だったが、渡航前の段階で 2 か所が追加、渡航後さらに 1 か所が追加になった。活動内容自体（土着菌培養、堆肥作りの指導）には変化はなかった。国内においては同行技術者の土着菌活用の実績調査が実施できなかった。
- 経理面については、格安航空券購入や通訳謝金を交渉するなどして、支出を予算より大幅に抑えることができた。支出について予算と決算の差額（決算－予算）が大きかったものは次の通りである。
 

航空券：－12.7 万円	通訳謝金：－6.9 万円
カンボジア内宿泊費：－5.0 万円	土着菌活用調査：－15.0 万円（未実施）

(2) 実施の結果（良かった点、反省点を含めて）

- 以前から活動している 3 つの活動場所で土着菌活用農法が定着しつつあることを確認できた。
- 2 つの大学が新たな活動場所になったのは良かった。今後、大学を拠点として土着菌活用農法が普及することを期待している。
- 孤児院でも新たに活動することになったが、ここの職員が土着菌活用方法習得のため、同行者の吉井氏宅に長期研修に来ることになった（準備中）。
- 活動場所が 3 か所も増えたことにより、スケジュールが過密になり、体力的に厳しかった。今後もカンボジア側の要望により活動場所が増えることが予想されるが、活動場所を絞り込むことが必要である。

(3) 異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？

または実施事業に対する一般の反響は？「協力活動」「調査研究」「海外での研修」

カンボジアの活動場所のうちの 2 つの村は、共に行動しているカンボジア人（通訳兼コーディネーター）の紹介であり、この 2 か所で土着菌活用農法が定着しつつあるのは、彼のおかげだと思っている。滞在期間中、彼とは毎日のようにカンボジアのこと、農業のことについて語り合っている。彼とは農業に対する考え方や自然に対する考え方がほとんど同じで同じ方向を向いていることを常を感じる。